



實性

平成二十八年 第二号 春彼岸発行

春

のお彼岸のご案内

お彼岸の由来

お彼岸は、私たちの心が清らかにして、日頃の悩み、苦しみの世界から理想の世界に立ち返らせていただく、大切な機会です。

私共は、仏様の慈悲のもと、ご先祖様守護のもと、父母のご恩、そして、諸所の人々の縁に支えられて暮らしております。そんな皆様の為にご恩返しできる、尊い歩みが出来るような人になりたい、という願いが込められる一週間がお彼岸です。彼岸は、向こう岸、迷い、煩惱の世界から河を渡り、悟りへの世界を目指す日です。

私共は、常日頃、一生懸命仕事をし、家庭を守り、忙しい日々を過ごしております。せめて、春秋の一週間、自分を見つめ、反省し、感謝し、仏道修行を致しましょう。これを六波羅蜜（ろくはらみつ）といえます。

六波羅蜜とは、布施（ふせ）

施しをする、ボランティアの原点、奉仕をする事

持戒（じかい） あらゆる生き物を大切にすること

忍辱（にんにく） 耐え忍ぶ事

精進（しょうじん） 努力すること

禅定（ぜんじょう） 心を静に保つ事

智慧（ちえ） 勉強し知識を高める努力をする事

自然をたたえ、生物をいつくしみ、人々を愛し、先祖を敬い、亡くなられた人々を偲び、感謝の気持ちでお墓参りをしたいものです。

彼岸会法要

●三月二十日（日）お中日

午前十一時より

参加費（お布施） 五千元

お彼岸入り 三月 十七日（木）

お彼岸中日 三月 二十日（日）

お彼岸明け 三月二十三日（水）

皆様お揃いで是非ご参加下さい。



法然上人涅槃図

一月二十五日は法然上人の御命日です。「御忌」の法要が行われますが、各総本山では四月に厳修されます。「御忌」（おんき）ではなく（ぎよき）と読みます。この読みは、後柏原天皇より法然上人の忌日法要のみに許された呼称です。

法然上人が入滅の時の絵が「法然上人涅槃図」です。

法然上人は、大勢の弟子にかこまれ、墨染めの衣にて合掌なされ、無阿弥陀仏のお念仏を唱えられながら念仏往生されました。

本堂脇にお祭りしてあります。



法然上人涅槃図

涅槃会

涅槃会とは、お釈迦様の入滅（亡くなられた）された二月十五日です。

お釈迦様の伝道は、北インドのガンジス河を中心に、四十五年間の永きにわたりました。八十歳となられたお釈迦様は、阿難（アーナンダ）と数名の弟子をともなつて、王舎城（ラージャグリハ）からクシナガラへと、伝道の旅をなさるのです。自らの入滅を予想され、生まれ故郷のカピラ城へ向かわれたようです。重病にもかかわらず、弟子達の助けをかりつつ、お釈迦様はさらに歩みを進められるのです。カククッター河

で沐浴され、疲れを癒やされた後、ビハール州クシナガラのサーラ樹林（沙羅双樹）にたどりつかれます。お釈迦様は、身を横たえられたまま、集まった人々を前にして最後の説法をなされます。よく戒めを守り、五欲を慎み、静寂を求めて努力をし、定を修して悟りの知恵を得るべきことを示されるのです。そして、静かに如来としての永遠の涅槃に入られるのです。阿難をはじめ弟子達の嘆きは、想像を絶するほど深いものであったでしょう。

涅槃図には、真白い花をつけたサーラ樹の下で、お釈迦様は、頭を北に顔を西に向け、右手を枕にして横臥し、周囲には十大弟子をはじめ、老若男女、鳥獣達さえも嘆き悲しみ、百獣の王である獅子までが、仰向けになつて慟哭している様子が描かれています。

これら動物の中に、猫が描かれていません。お釈迦様が入滅なされたとき、あらゆる動物が直ちに駆け参りました。猫はお釈迦様に会うために化粧をしました。それで遅れて参りました。ゆえに猫は描かれず、十二支にも入れず、一生、顔を洗って毛づくろいしていると「ジャータカ物語」に記されています。

図の右上には、とうり天からかけつけたお釈迦様の母君、マヤ夫人が描かれています。

この涅槃図も本堂内に、お祭りしています。どうぞお参りください。



釈迦涅槃図

仏事と慶事

「祝い事は日延べをしても仏事は遅らせてはいけない」とよく言われます。

これは、楽しい事、嬉しい事、そして面白い事は、人に言われなくとも自然と勧めることができず、悲しい事、嫌な事、つまらない事は、どうしても後回しのなってしまうのが人情というもの、老若男女を問わず誰の心にもある弱さなのかもしれません。

「仏事は遅らせてはいけない」というのは、そうした人間の弱い心をひとつの「決まり事」（きまりごと）として戒め（いましめ）としたものでしょう。

またその裏には、「決して怠ることなく、心して行いなさい」という真の意味が含まれていることを忘れてはなりません。

近年、年回法要も故人の御命日ではなく、営む側の都合だけで日を選ばれることも多いようです。

仏事は、他人から言われていやいや行うものでも、世間体で行うものでもなく又、しかたなく行うものでもありません。誰のために、何のために開く法要なのかを考え、真心をもって勤めたいものです。

修正会報告

一月三日、多数の檀信徒各位のご参加の元、平成二十八年度修正会が厳修されました。

当日は、国家安泰・先祖代々・家内安全、無病息災等をお祈りし、絵馬に諸願成就を書き、奉納いたしました。

清宴では、衆議院議員鴨下一郎先生にも新年のご挨拶をいただき、柳家我太楼師匠の司会進行のビンゴゲームでお楽しみいただきました。

来年度の修正会も多数の皆様のご参加をお待ちしております。



大島椿の絵

檀徒様・花畑四丁目在住の合田正忠様より朝顔の大作に続き「大島椿の絵」のご寄贈がございました。

合田先生は、日本画の先生で、日本芸術協会正会員であられ、合田宝麗というお名前でご各所展覧会に出品されております。

「大島椿の絵」という題された素晴らしい作品です。客殿に飾らせていただきました。



花まつり

四月八日（金）は、お釈迦様がお生まれになられた誕生日です。お寺で、灌仏会が開催されます。お釈迦様の誕生をお祝いし、誕生仏に甘茶をかけお祝いいたしましょう。

本堂前（御拝）に花見堂が出ております。お参りいただいた方に「甘茶のティーバック」を差し上げます

●日時 三月下旬より四月上旬まで

午前十時より午後四時まで

●場所 實性寺 本堂前（御拝）



お墓参り

❖ お墓参りにこられましたら、まず御本尊様に手を合わせましょう。これは、阿弥陀様に合掌することにより、功德をいただき、その功德をお墓の諸霊に振り向けることです。すなわちこれが「回向」です。そして、お帰りにはご回向できた御礼の合掌をいたしましょう。また、お参りを済ませましたならば、ご自身がお参りできた事の喜びの一環として、無縁様（ご回向のご縁のない諸霊）に手を合わせたいものです。

❖ お線香を供えるには、なるべく香りの良い物を差し上げて下さい。一本でも、あるいは半分折つても十分です。

❖ 持参のお線香を、ご自身で火を付けるのは危険です。どうぞ玄関でお申し付け下さい。（もちろん無料です）

❖ お供え物は、カラス・猫等が汚しますので、お墓参りが済みましたら、お供え物はお持ち帰り下さい。

ご法事

❖ ご法事には、「年回の法事」「祥月命日の法事」「先祖代々供養の法事」等がございます。

❖ ご供養には、卒塔婆供養（施主用大卒塔婆、普通卒塔婆）があります。

❖ お供え物は、「果物」「お菓子」がございますが、生前お好きだった物をお供えするのが好ましいと存じます。

尚、仏様になられておりますので、「生息物」は避け、精進の物が良いと思います。

❖ お酒、たばこ類は、仏様になられますと好まないといわれておりますが、差し上げて宜しいのではないかと存じます。

❖ 生花は、「慈愛」をあらわす物にて、こちらでも生前お好きだった花があれば供えられるのも良いと思います。

☆ ご法要等のお塔婆を建立される方は、遅くとも十日前迄にお申し込み下さい。お電話よりファックスの方が正確です。ご利用下さい。

ファックス番号 03 (3883) 3227

振替 口座 00190-6-258873

※振込用紙をご入用の方はお申し出下さい。

〒121-0061 東京都足立区花畑三十七-十八
電話 03 (3883) 8866

浄土宗 實性寺

<http://www.jisyoji.com>